

業務プロセス可視化技術

2008年3月更新

概要

業務システムのDB上に蓄積されたデータから、そのシステムを利用している業務プロセスの実態を表す業務フロー図を生成する技術です。業務フロー図とそれに関連する業務データを組み合わせて分析することにより、業務やシステムに潜む課題・問題を洗い出し、業務プロセス改善につなげることができます。

技術のポイント

- ・ 設計仕様として想定した業務プロセスではなく、実際にシステム上で行われている業務プロセスの実態を明らかにできます。
- ・ 稼動システムに手を入れることなく、システムに蓄積済みのデータをそのまま利用して、低コストで短期間に業務プロセスの可視化が可能です。
- ・ 業務の非効率な部分の検出、システム設計仕様とは異なる使われ方の検出、例外的な業務の検出など、現行システムにおける業務上の課題を発見することが期待できます。

適用例

- ・ システム再構築時に、既存システムの利用実態を分析して改善ポイントを洗い出し、上流企画・設計に反映する。
- ・ APM/BPO^(*)顧客の資産を業務プロセスの観点から評価・分析し、定期的な業務改善提案につなげる。
- ・ 内部統制を実行後に、現場での業務プロセスの実行状況を検証する、など。

*1 APM: アプリケーションポートフォリオマネジメント、 BPO: 業務プロセスアウトソーシング

